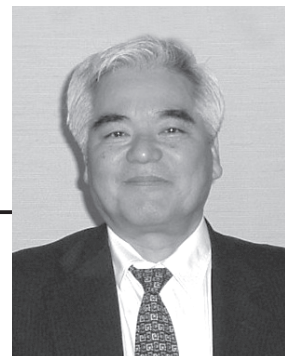


# 視 点

## 生涯学習制度を活用して 信頼性の高い薬剤師を目指そう

公益社団法人薬剤師認定制度認証機構  
代表理事

吉田 武美



6年制薬学教育を受けた薬剤師が社会へ巣立ち、活動を始めています。薬局・病院での長期実務実習による医療現場の経験も踏まえて、問題発見・解決能力の高い薬剤師として、安心・安全の医療に貢献できるような教育がなされています。とはいえ、医療人として、社会や国民からの期待に応え、各職域で信頼される職務を果たすには、卒業後の持続的な学習による知識・技能向上のために自己研鑽が必要です。事実、古くから多くの薬剤師が自主的、自律的に生涯学習に取り組み、職能の向上に努めてきていることが、患者主体の医療に貢献し、チーム医療、在宅医療などの地域医療、セルフメディケーション等への貢献など、社会からの期待につながっています。

生涯学習の目標は、「薬剤師に対する患者や地域社会からの信頼性の獲得」であり、個々の薬剤師が、積極的に取り組んでいくべきことです。生涯学習が未だ薬剤師全体の課題となっていない理由は、実行すべき法規制や行政上の取決めがなされていず、薬剤師自身の自己管理に任されているからかも知れません。薬剤師が、生涯学習を通して自己研鑽に努めていることを、社会に示し、国民から評価され、信頼を得ていくことは、職能団体への信頼へとつながります。全薬剤師が生涯学習の目標を身近なものとして理解し、学習環境が全国的に整備されていけば、将来的には義務化していくことも可能かと思われます。

薬剤師の生涯学習を支援する研修実施機関は、CPC認証取得研修プロバイダーで20を数え、それぞれ提供する研修課題も豊富で、学習者の学習記録を証明し、研修認定薬剤師を認定しています。また、特定領域や専門領域の薬剤師の認定は、学会等が主として行っています。薬剤師生涯学習の実施機関の研修内容や認定制度の質の保証は、公正、中立の立場の第三者機関により評価され、公表されることが現在社会の一般的認識です。研修実施機関の生涯研修や認定の制度を客観的に保証するために設立されたのが薬剤師認定制度認証機構(Council on Pharmacists Credentials, CPC)です。CPCは、2004年日本薬学会など薬学教育関連や日本薬剤師会など薬剤師関連団体の支持を受け、内山 充初代理事長のもと、

まず有限責任中間法人として発足し、2010年公益法人として内閣府より認定され、上記の業務を行っています。CPCでは、薬剤師の目標は、「真に人と社会に役立つ」ことにありとし、そこに至る行動と職能を示し、「求められる薬剤師への道程」で薬剤師生涯学習の基本を示し、「薬剤師生涯学習のあり方」で基本的な考え方を提言し、HPで公表しているので、是非アクセスされて下さい。CPCは、薬剤師が勤務する組織や各職域で、指導的立場や人事権などのある責任者は、生涯学習に取り組める職場環境の整備を進め、得られる学習成果を適切に評価し、その成果が報われる環境作りに努めることを期待しています。

日本薬剤師会は、生涯学習支援の一環としてJPALSを構築・公表し、学習記録(ポートフォリオ)による自己研鑽を勧めています。また、CPCの特別会員として協力もいただいております。このシステムが多く薬剤師に活用され、評価・認定につながっていくことを期待します。

薬剤師は、医薬品に加え多岐にわたる化学物質と関連法規を学習してきており、「街の科学者(化学者)」としての役割も果たすべきです。実際に学校薬剤師やスポーツファーマシストなどとして幅広く関与し、また、くすり教育や薬物乱用防止活動など、社会問題にも率先して関わっています。これらの活動は、学童、生徒、そして社会人に対して、まさに顔の見える薬剤師そのものであり、さらなる信頼性の確保につながることから、この関連の知識・技能の充実も図るべきでしょう。

薬剤師は、薬物の安全性の守り手として、薬物療法におけるチーム医療の一員としての役割は言うまでもなく、ジェネラリストを基盤とする地域医療への貢献と社会活動が期待されています。生涯学習を通して、人と社会に役立ち、信頼される薬剤師としての自身を確立しましょう。全ての薬剤師が生涯学習に取り組める環境を作り、自己研鑽の成果を適切に評価・認定されることにより、薬剤師個人の実質的な免許更新にも変わりうることを社会や国民に周知してもらうことで、薬剤師職能への信頼性をより高めていきましょう。